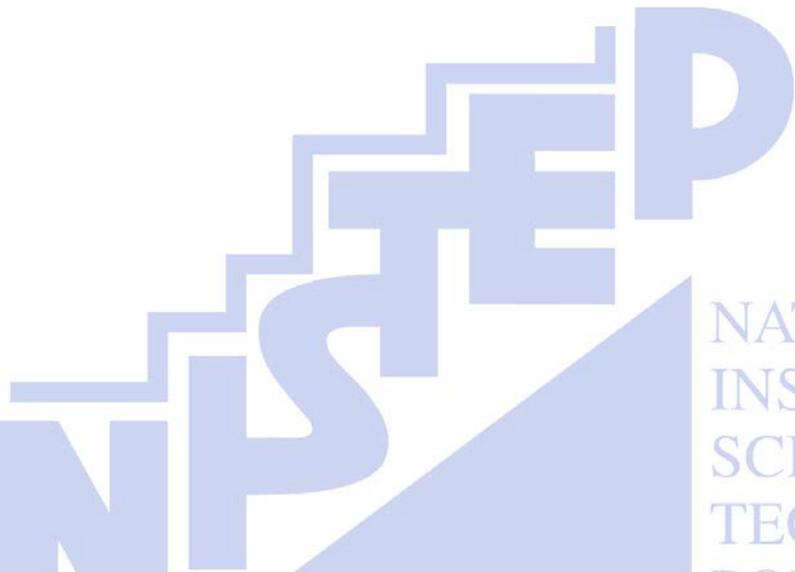


科学技術の状況についての現場の意見を
把握するツール
-NISTEP定点調査検索の使い方-



NATIONAL
INSTITUTE OF
SCIENCE AND
TECHNOLOGY
POLICY

NISTEP定点調査の概要

(調査の目的は?)

- 研究費の使いやすさ、基礎研究の多様性など研究開発統計からは把握しにくい、日本の科学技術とイノベーションの状況を、継続的な意識調査から明らかにする事

(調査の特徴は?)

- 約1,500名の固定した回答者集団に、毎年1回、同一の質問票調査を継続的に実施
- 調査は2011年度～2015年度までの5年間実施予定。これまでに、2011及び2012年度調査の結果を公表

(どのようなデータが得られている?)

- 科学技術やイノベーションの状況についての有識者や研究者の認識を指数化した値(平均的認識) 
- 自由記述(文庫本約14冊分を超える研究者や有識者の生の声)





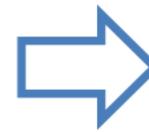
国会対応や審議会などで参考資料を作らない
といけない！

記者から「これまでの課題や効果は？」と聞かれた。有
識者にご意見を伺いに行く前に、大要を把握したい。

「来年の概算要求に向けて何かあったら教えてね」
と指示を受け、概算要求のタマ出しをしないといけない！

そんなときは、NISTEP定点調査検索！

研究者や研究環境などの状況についての
有識者や研究者の**平均的認識**が知りたい！



指数表示



取りあげたいキーワードは決まっている！
それについての有識者や研究者の**生の声**が知りたい！



自由記述検索



科学技術・学術政策研究所
National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP)

科学技術の状況に係る総合的意識調査 (NISTEP定点調査) 検索

Comprehensive Survey according to the situation of science and technology

「科学技術の状況に係る総合的意識調査（以下、NISTEP定点調査）」は、研究費の使いやすさ、基礎研究の多様性など通常の研究開発統計からは把握しにくい、日本の科学技術イノベーションの状況について、産官学の研究者や有識者への意識調査から明らかにすることを目的にした調査です。

NISTEP定点調査は、第4期科学技術基本計画中の2011年度～2015年度の5年間にわたって実施し、調査対象者は、産学官の研究者や有識者約1,500名です。大学における研究者、研究環境、基礎研究などの状況を細かく把握するために、論文シェアによる大学グループ別、分野(理学、工学、農学、保健)別に調査対象者の抽出を行っています。

NISTEP定点調査 (2011-2015年度)

本システムでは、定点調査の結果について、以下を表示検索することが出来ます。

- A. 機関属性別の集計結果の表示
- B. 個人属性別の集計結果の表示
- C. 過去の調査結果の時系列表示
- D. 自由記述の検索

NISTEP定点調査 (2011-2015年度) →



*推奨ブラウザ：Internet Explorer 9以上、Firefox最新版、Chrome最新版
(推奨ブラウザ以外でのご利用や設定によっては、正しく表示されない場合があります。)

表示データ選択

p. 16~26

表示データを選んでください。()は含まれている設問数です。

自由記述検索

全データから自由記述をキーワード検索します >

D自由記述検索

p. 6~15

指数表示

パートI 大学や公的研究機関における研究開発の状況 (質問内容はこちら)	A機関属性別表示	B個人属性別表示	C回答分布および時系列表示
若手人材(8)	表示	表示	表示
研究者の多様性(7)	表示	表示	表示
研究環境や研究施設・設備(6)	表示	表示	表示
パートII 研究開発とイノベーションをつなぐ活動等の状況 (質問内容はこちら)	A機関属性別表示	B個人属性別表示	C回答分布および時系列表示
産学官連携(12)	表示	表示	表示
科学技術予算や知的・研究基盤(4)	表示	表示	表示
基礎研究(6)	表示	表示	表示
社会と科学技術イノベーション政策(4)	表示	表示	表示
パートIII イノベーション政策や活動の状況 (質問内容はこちら)	A機関属性別表示	B個人属性別表示	C回答分布および時系列表示

指数表示の2ステップ

① 指数表示したい質問と属性の選択



② 資料に利用できる形式への加工

① 可視化したい質問と属性の選択

機関 ↔ 個人

質問の種類		発の状況 (質問内容はこちら)			
	A機関属性別表示	B個人属性別表示	C回答分布および時系列表示		
若手人材(8)	表示	表示	表示		
研究者の多様性(7)	表示	表示	表示		
研究環境や研究施設・設備(6)	表示	表示	表示		
パートII 研究開発とイノベーションをつなぐ活動等の状況 (質問内容はこちら)		A機関属性別表示	B個人属性別表示	C回答分布および時系列表示	
産学官連携(12)	表示	表示	表示		
科学技術予算や知的・研究基盤(4)	表示	表示	表示		
基礎研究(3)	表示	表示	表示		
社会連携(2)	表示	表示	表示		
パートIII イノベーション政策や活動の状況 (質問内容はこちら)		A機関属性別表示	B個人属性別表示	C回答分布および時系列表示	
重要課題の達成に向けた推進体制構築(5)	表示	表示	表示		
科学技術イノベーションに関する新たなシステムの構築(6)	表示	表示	表示		
イノベーションの状況(2)	表示	表示	表示		

集計方法の種類
(機関属性別 / 個人属性別)

質問票の構成

質問票 パート	質問大分類	質問中分類	学長・機関長	拠点長・中心研究者	研究者	イノベーション俯瞰					
パート1 大学や公的研究機関における研究開発の状況(21)	若手人材(8)	若手研究者の状況(5)	回答者の所属する大学や機関における状況	回答者の所属する部局等における状況	回答者の所属する部局等における状況						
		研究者を目指す若手人材の育成の状況(3)									
	研究者の多様性(7)	女性研究者の状況(3)									
		外国人研究者の状況(2)									
		研究者の業績評価の状況(2)									
	研究環境や研究施設・設備(6)	研究環境の状況(5)									
		研究施設・設備の整備等の状況(1)									
	パート2 研究開発とイノベーションをつなぐ活動等の状況(26)	産学官連携(12)					シーズとニーズのマッチングの状況(3)	回答者の所属する大学や機関における状況	回答者の所属する部局等における状況	回答者の所属する部局等における状況	
							産学官の橋渡しの状況(4)				
							大学や公的研究機関の知的財産の活用状況(2)				
地域が抱えている課題解決への貢献の状況(1)											
研究開発人材育成の状況(2)											
科学技術予算や知的・研究情報基盤(4)		科学技術予算等の状況(2)									
		知的基盤や研究情報基盤の状況(2)									
基礎研究(6)		基礎研究の状況(6)									
社会と科学技術イノベーション政策(4)		社会と科学技術イノベーション政策の関係(4)									
パート3 イノベーション政策や活動の状況(15)		重要課題の達成に向けた推進体制構築(5)	重要課題の達成に向けた推進体制構築の状況(5)	日本全体の状況	日本全体の状況	日本全体の状況	日本全体の状況				
	科学技術イノベーションに関する新たなシステムの構築(6)		科学技術イノベーションに関する新たなシステムの構築の状況(6)								
	イノベーションの状況(4)	ライフ・イノベーションの状況(2)									
		グリーン・イノベーションの状況(2)									

属性情報

機関

機関属性別表示を利用

- 大学／公的研究機関／民間企業等
- 大学グループ別(第1G／第2G／第3G／第4G)
- 大学部局分野別(理学／工学／農学／保健)
- 大学種別(国立／公立／私立)

個人

個人属性別表示を利用

- 年齢(歳)(39未満／40～49／50～59／60以上)
- 性別(男性／女性)
- 職位(社長・役員、学長／部・室・グループ長、教授／主任研究員、准教授／研究員、助教／その他)

年度の選択と属性情報を用いた絞り込み

2011年 **2012年** ← 調査年度の選択

■ 集計対象データ (1267件)

所属機関区分：すべて 大学グループ：すべて

大学種別：すべて 大学部局分野

年齢：すべて 性別：すべて

検索条件の絞り込み

集計対象データを絞り込む

問	質問内容	大学	公的研究機関	民間企業等	大学グループ別				 7.2 指数 (614) 回答数		
					第1	第2	第3	第4			
Q1-18	研究開発にかかる基本的な活動を実施するうえで、現状の基盤的経費(機関の内部研究費)は充分と思いますか。	 2.6 (713)	 3.8 (117)	—	 2.6 (134)	 2.1 (230)	 2.1 (153)	 3.5 (196)			
Q1-19	科学研究費助成事業(科研費)における研究費の使いやすさ(例えば入金時期、研究費の年度間繰越等)の程度はどのように思いますか?	 4.9 (699)	 4.8 (101)	—	 5.3 (133)	 4.7 (228)	 5.1 (149)	 4.8 (189)	 5.7 (103)	 5.4 (228)	 4.6 (76)

指数の可視化方法



状況に問題はない(指数5.5以上)



ほぼ問題はない(指数4.5以上～5.5未満)



不十分(指数3.5以上～4.5未満)



不十分との強い認識(指数2.5以上～3.5未満)



著しく不十分との認識(指数2.5未満)

② 資料に利用できる形式への加工

- 資料に利用する範囲をコピー

問	質問内容	大学	公的研究機関	民間企業等	大学グループ別				大学部局分野別						
					第1	第2	第3	第4	理学	工学	農学				
Q1-18	研究開発にかかる基本的な活動を実施するうえで、現状の基盤的経費(機関の内部研究費)は充分と思いますか。	2.6 (713)	3.8 (117)	—	2.6 (134)	2.1 (230)	2.1 (153)	3.5 (196)	2.9 (105)	2.9 (236)	1.5 (78)				
		(707)	(117)	—	(133)	(233)	(147)	(194)	(101)	(235)	(78)	(220)	(495)	(59)	(153)
業務に従事 ストレス ていると思		2.0 (679)	2.4 (113)	—	2.4 (129)	1.9 (223)	2.1 (141)	1.9 (186)	1.8 (96)	2.2 (220)	1.6 (76)	1.8 (214)	2.1 (474)	1.8 (58)	2.0 (147)
・先端的な うのに充分		4.7 (713)	5.2 (115)	—	6.1 (134)	4.5 (234)	3.9 (150)	4.6 (195)	5.5 (103)	4.9 (237)	3.8 (77)	4.5 (223)	4.8 (501)	4.6 (58)	4.6 (154)

答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→11ポイントに変換し、
の。指数のレンジは0.0ポイント~10.0ポイントとなる。

Shift

+

CLICK

で選択してコピー

② 資料に利用できる形式への加工(続き)

- 「天気図調整フォーマット」にコピーした内容を貼り付けた後、「フォーマット調整(機関)」又は「フォーマット調整(個人)」をクリック

天候図調整フォーマット.xlsxm - Microsoft Excel

1	2	問	質問内容	大学	公的研究機関	民間企業等	大学グループ別				大学部局分野別				大学種別					
							第1	第2	第3	第4	理学	工学	農学	保健	国立大学	公立大学	私立大学			
3	4	Q1-18	研究開発にかかる基本的な活動を実施するうえで、現状の基盤的経費(機関の内部研究費)は充分だと思いますか?			—														
5				2.6	3.8	—	2.6	2.1	2.1	3.5	2.9	2.9	1.5	2.3	2	3.2	4.1			
				-713	-117		-134	-230	-153	-196	-105	-236	-78	-221	-498	-60	-155			
6	7	Q1-19	科学研究費助成事業(科研費)における研究費の使いやすさ(例えば入金の時期、研究費の年度間繰越等)の程度はどのようだと思いますか?			—														
8				4.9	4.8	—	5.3	4.7	5.1	4.8	5.7	5.4	4.6	4	5.1	5.2	4			
				-699	-101		-133	-228	-149	-189	-103	-228	-76	-219	-498	-58	-143			
			研究費の基金化は、研究開発を効率的に促進する効果があると思いますか?			—														

研究時間の状況

〈〈分かることを書く(例)〉〉

- 研究時間を確保するための取り組み(Q1-21)やリサーチアドミニストレータの育成・確保(Q1-22)については、著しく不十分であるとの認識が示されている。
- 全ての大学グループ、大学部局分野において、同じ認識が示されている。

問	質問内容	大学	公的研究機関	民間企業等	大学グループ別				大学部局分野別			
					第1	第2	第3	第4	理学	工学	農学	保健
Q1-21	研究時間を確保するための取り組み（組織マネジメントの工夫、研究支援者の確保など）は充分なされていると思いますか。			—								
		2.3	3	—	2.2	2.3	2.2	2.4	2.2	2.2	1.5	2.2
		707	117	—	133	233	147	194	101	235	78	220
Q1-22	研究活動を円滑に実施するための業務に従事する専門人材（リサーチアドミニストレータ）の育成・確保は充分なされていると思いますか。			—								
		2	2.4	—	2.4	1.9	2.1	1.9	1.8	2.2	1.6	1.8
		679	113	—	129	223	141	186	96	220	76	214



状況に問題はない(指数5.5以上)



ほぼ問題はない(指数4.5以上～5.5未満)



不十分(指数3.5以上～4.5未満)



不十分との強い認識(指数2.5以上～3.5未満)



著しく不十分との認識(指数2.5未満)

抽出条件: 2012年度調査、全ての回答を用いた集計結果

出典: NISTEP定点調査検索 (<http://data.nistep.go.jp/teiten/>)

自由記述検索の3ステップ

① 検索語の検討

② 検索の実施

③ 資料で利用できる形への加工

自由記述質問の一覧

質問番号	年度	質問内容
Q1-9	2011年度	優秀な若手研究者の育成や確保という観点から、現在何が障害になっており、それを解決するにはどのような方策があるでしょうか。ご意見をご自由にお書き下さい。
Q1-15	2011年度	大学・公的研究機関における多様な研究者の確保という観点から、現在何が障害になっており、それを解決するにはどのような方策があるでしょうか。ご意見をご自由にお書き下さい。
Q1-23	2011年度	大学や公的研究機関において、研究開発から得られる成果の質の向上や研究開発に集中できる環境を構築する為に、どのような取り組みが必要ですか。ご意見をご自由にお書き下さい。
Q1-25	2011年度	研究施設・設備の状況について、課題があるとお考えの点について、ご意見をご自由にお書き下さい。
Q2-11	2011年度	大学・公的研究機関にとって、産学官連携活動によるメリット(研究や教育に対する効果など)は何ですか。ご意見をご自由にお書き下さい。
Q2-12	2011年度	大学・公的研究機関の優れた研究成果を、経済的(新産業・新事業の創出、既存産業の発展など)や社会的・公共的価値(安全・安心の確保、生活の質の向上など)につなげるために、現在何が障害になっており、それを解決するにはどのような方策があるでしょうか。ご意見をご自由にお書き下さい。
Q2-15	2011年度	研究開発人材を育成する上で、現在何が障害になっており、それを解決するにはどのような方策があるでしょうか。ご意見をご自由にお書き下さい。
Q2-18	2011年度	科学技術予算の状況について、ご意見をご自由にお書き下さい。
Q2-21	2011年度	知的基盤や研究情報基盤の状況について、ご意見をご自由にお書き下さい。
Q2-28	2011年度	我が国の大学・公的研究機関における基礎研究の多様性や独創性を確保する上で、現在何が障害になっており、それを解決するにはどのような方策があるでしょうか。ご意見をご自由にお書き下さい。
Q2-33	2011年度	社会と科学技術イノベーション及びそのための政策の関係について、ご意見をご自由にお書き下さい。
Q2-34	2011年度	世界における科学技術やイノベーションの状況を踏まえて、我が国が世界的なトレンドと乖離(かいり)しているような状況は無いでしょうか。研究開発活動のポートフォリオ、科学技術政策、イノベーション政策、国際化の状況など、ご意見をご自由にお書き下さい。

自由記述質問の一覧(続き)

質問番号	年度	質問内容
Q3-6	2011年度	重要課題の達成に向けた推進体制構築の状況について、ご意見をご自由にお書き下さい。
Q3-13	2011年度	イノベーションを通じて、経済的(新産業・新事業の創出、既存産業の発展など)や社会的・公共的価値(安全・安心の確保、生活の質の向上など)を生み出す上で、現在何が障害になっており、それを解決するにはどのような方策があるでしょうか。ご意見をご自由にお書き下さい。
Q3-17	2011年度	グリーンイノベーションの重要課題の達成に向けて、現在障害になっている事項とその解決に向けた方策について、ご意見をご自由にお書き下さい。
Q3-21	2011年度	ライフイノベーションの重要課題の達成に向けて、現在障害になっている事項とその解決に向けた方策について、ご意見をご自由にお書き下さい。
Q3-22	2011年度	東日本大震災からの復旧・復興に科学技術が貢献できること、科学技術が貢献する上で現在障害になっている事項について、ご意見をご自由にお書き下さい。
Q3-23	2011年度	自然災害をはじめとする様々な災害等から、人々の生活の安全を守るため科学技術にはどのような貢献が求められるでしょうか、ご意見をご自由にお書き下さい。
Q1-26	2012年度	Part I 全体について、ご意見等をご自由にお書きください。
Q2-35	2012年度	Part II 全体について、ご意見等をご自由にお書きください。
Q3-24	2012年度	Part III 全体について、ご意見等をご自由にお書きください。
Q4-2-3	2012年度	融合・連携がなぜ必要なのか(どのような社会的な課題の解決に結びつくのかなど)、融合・連携を進めることで具体的にどのような科学技術の進展やイノベーションが期待されるかをお答えください。
Q4-2-4	2012年度	融合・連携を進めるために、優先的に実施すべきことについてお答えください(特に海外との比較において、至急、改善が必要な点についての記述を歓迎します)。
Q4-3-3	2012年度	大学の基礎研究力を強化するために優先的に実施すべきことについてご自由にお書きください。大学に所属されている方は、あなたの研究チームとあなたがライバルと考えている海外の研究チームを比較して、状況に大きな違いがあると考えられる点(研究チームの規模や構成、研究開発資金、支援体制、研究時間の確保など)についての記述をお願いします。

① 検索語の検討

- 調べたい言葉を検索語としてリストアップ。
 - － 例：研究時間
- 検索結果が多い場合に備えて、検索結果を絞り込む検索語もリストアップ。
 - － 例：支援者、支援体制、臨床、評価、雑務、事務、会議など



② 検索の実施

- リストアップした検索語を用いて検索。

検索キーワード
 (複数指定可)
 (質問内容は[こちら](#))

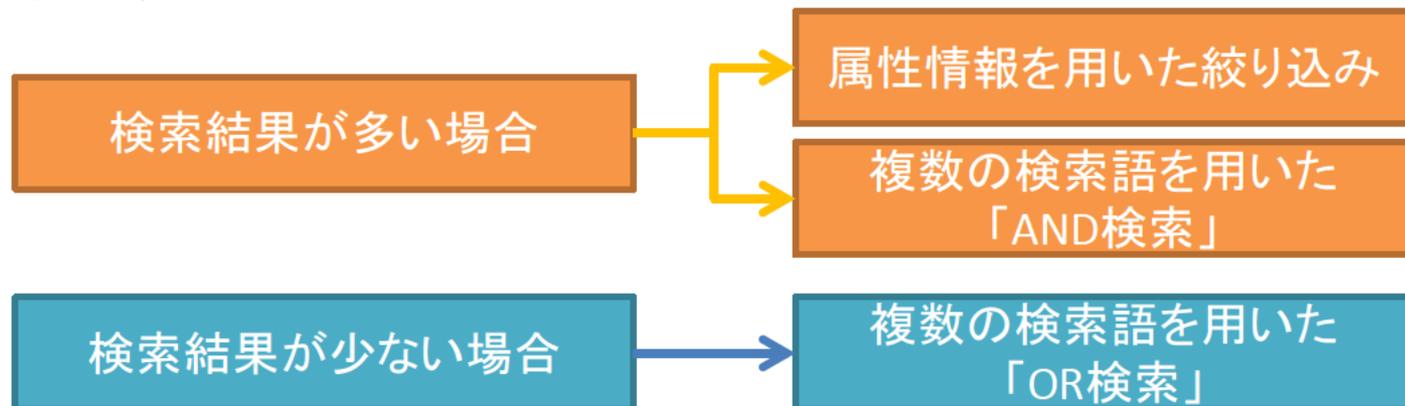
研究時間

すべてのワードを含む (AND) いずれかのワードを含む (OR)

検索

➡ 263件が該当

(ワンポイント)



属性情報を用いた絞り込み

検索キーワード

(複数指定可)
(質問内容は[こちら](#))

すべてのワードを含む (AND) いずれかのワードを含む (OR)

このボタンを押すと属性による絞り込みが可能になる

集計対象データを絞り込む

■ 集計対象データを選んでください

所属機関区分	<input checked="" type="checkbox"/> 大学 <input type="checkbox"/> 公的研究機関 <input type="checkbox"/> 民間企業
大学詳細絞り	(大学のみ)
大学グループ	<input type="checkbox"/> 第1グループ <input type="checkbox"/> 第2グループ <input checked="" type="checkbox"/> 第3グループ <input type="checkbox"/> 第4グループ
大学部局分野	<input type="checkbox"/> 理学 <input type="checkbox"/> 工学 <input type="checkbox"/> 農学 <input type="checkbox"/> 医・歯・薬学
職位	<input type="checkbox"/> 社長・役員、学長 <input type="checkbox"/> 部・室・グループ長、教授 <input checked="" type="checkbox"/> 主任研究員、准教授 <input checked="" type="checkbox"/> 研究員、助教 <input type="checkbox"/> その他
性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性

絞り込み条件の指定。

この例では、「大学」の「第3グループ」の「主任研究員、准教授」「研究員、助教」の自由記述を検索。

[選択クリア](#) (再度全体から検索する際はチェックをクリアして検索し直してください)

設定した条件での再検索

20件が該当



複数の検索語を用いた「AND検索」

複数の検索語を入力
(いくつでも可能、検索語の間にスペース)

検索キーワード
(複数指定可)
(質問内容は[こちら](#))

研究時間 支援者

すべてのワードを含む (AND) いずれかのワードを含む (OR)

検索

「すべてのワードを含む」
を選択

➡ 9件が該当

③ 資料の作成

- 検索結果をCSVファイルとしてダウンロードする。

					長、教授		時刻以降となつてしまっている。
2011	Q1-23	大学	第3グループ	工学	部・室・グループ長、教授	男性	地方国立大学の人員削減はやりすぎている。旧制大学に比べて圧倒的に少ない教授数で大学運営、入試を行う一方で、助教、研究支援者や専門人材がほとんどいないのが研究時間の確保を難しくしている。大学間を異動してやりすぎている事実を知った。
2011	Q1-23	大学	第2グループ	理学	主任研究員、准教授	男性	研究時間確保のためには研究者自身の工夫も必要であろう。しかし研究以外の機関業務を平等に分担し、研究機関の研究系・事務系業務の支援者を必要に応じて配置することも必要と思う。
2011	Q1-23	大学	第4グループ		社長・役員、学長	男性	学生の質的变化に伴い教育が学生支援に要する時間が格段に増えている。研究者としての教員の研究時間確保には教員数の増加や、研究支援者、補助者の増加が不可欠である。
2011	Q1-23	大学	第1グループ		社長・役員、学長	男性	①研究支援スタッフの充実。特に、単なる事務補助者ではなく、リサーチアドミニストレーターや技術職員等のある程度の専門的知識や能力を有する支援者を確保することが必要。②サバティカル休暇の導入拡大。研究の進展のためには、まとまった研究時間の確保が不可欠。③研究インフラの予算措置の拡充。④教育負担の軽減。

← 戻る

↓ CSVダウンロード



CSVのダウンロード

CSVからのフォーマット変換

- CSVファイルの内容を「自由記述調整フォーマット」で調整し、必要な部分をパワーポイントなどに貼りつける。

自由記述調整フォーマットV3.xlsx - Microsoft Excel

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
	文字数	対象年	問番	所属機	大学グループ	大学所属	職位	性別	自由記述		自由記述
1	80	2012	Q4-3-3	公的研究機関			教授、助教	女性			
2	60	2012	Q4-3-3	大学	第2グループ	工学	研究員、助教	男性			研究時間の確保が最重要。研究支援者の増加、評価の頻度を下げて、科研費の採択率を35%まで上げる。研究費の研究時間の確保、技官や事務員などの研究支援者の増強、じっくり考えて研究を進め、密に学生を指導する時間が確保
3	112	2012	Q4-3-3	大学	第1グループ	保健	研究員、助教	男性			研究支援者の数、研究時間の確保が不十分なのは否めない。ただ、世界から優秀な博士研究員を確保できる米国・
4	309	2012	Q4-3-3	大学	第3グループ		教授、助教	男性			大学の研究基礎力を強化する第一は、若手研究者の自由な研究環境・研究時間の確保とともに、中堅研究者の教育・
5	83	2011	Q1-23	大学	第4グループ	保健	教授、助教	男性			研究の質を向上させるためには、マネジメントが重要ではあるが、教室内の研究支援者らとの十分な情報交換も必須。
6	114	2011	Q1-23	大学	第3グループ	工学	教授、助教	男性			地方国立大学の人員削減はやりすぎている。旧制大学に比べて圧倒的に少ない教授数で大学運営、入試を行う一方
7	85	2011	Q1-23	大学	第2グループ	理学	准教授、助教	男性			研究時間確保のためには研究者自身の工夫も必要であろう。しかし研究以外の機関業務を平等に分担し、研究機関の
8	79	2011	Q1-23	大学	第4グループ		教授、助教	男性			学生の質の変化に伴い教育が学生支援に要する時間が格段に増えている。研究者としての教員の研究時間確保には
9	149	2011	Q1-23	大学	第1グループ		教授、助教	男性			①研究支援スタッフの充実。特に、単なる事務補助者ではなく、リサーチアドミニストレーターや技術職員等のある程度
10	0										(,,,,)

ここにテキストを貼り付ける

研究時間の状況(自由記述の例)

- 研究時間の確保が最重要。研究支援者の増加、評価の頻度を下げて、科研費の採択率を35%まで上げる。研究費の集中化が進み過ぎた結果、研究費の不正使用が頻発している。(公的研究機関, , 社長・役員、学長, 女性)
- 研究時間の確保, 技官や事務員などの研究支援者の増強. じっくり考えて研究を進め, 密に学生を指導する時間が確実に減っている。(大学, 第2グループ, 工学, 研究員、助教, 男性)
- 研究支援者の数、研究時間の確保が不十分なのは否めない。ただ、世界から優秀な博士研究員を確保できる米国・英国と比べて言語や文化的なハンディを負っていることを加味すれば、国内の院生に頼っている日本はむしろよく頑張っていると思う。(大学, 第1グループ, 保健, 研究員、助教, 男性)
- 大学の研究基礎力を強化する第一は、若手研究者の自由な研究環境・研究時間の確保とともに、中堅研究者の教育・研究時間の十分な確保が重要と思われる。特に、中堅研究者の教育と研究は、時間軸でのメリハリを付け、各々に十分集中して取り組める時間の確保が大切である。クォーター制を活用した短期のサバティカル・リーブと夏季休暇等の組み合わせや、地域社会の他大学や企業等と連携した学生の教育(COC構想等)など工夫の余地がある。第二は研究支援者の充実があげられる。欧米では、技術面やデザイン面でプロフェッショナルあるいはスペシャリストが研究者を支援する体制が確立されている。研究者の時間確保のためにもこうした支援体制の充実が必要である。(大学, 第3グループ, , 社長・役員、学長, 男性)
- 研究の質を向上させるためには、マネジメントが重要ではあるが、教室内の研究支援者らとの十分な情報交換も必須と思われる。研究時間はどうしても夕刻以降となってしまう。(大学, 第4グループ, 保健, 部・室・グループ長、教授, 男性)
- 地方国立大学の人員削減はやりすぎている。旧制大学に比べて圧倒的に少ない教授数で大学運営、入試を行う一方で、助教、研究支援者や専門人材がほとんどいないのが研究時間の確保を難しくしている。大学間を異動してやりすぎている事実を知った。(大学, 第3グループ, 工学, 部・室・グループ長、教授, 男性)
- 研究時間確保のためには研究者自身の工夫も必要であろう。しかし研究以外の機関業務を平等に分担し、研究機関の研究系・事務系業務の支援者を必要に応じて配置することも必要と思う。(大学, 第2グループ, 理学, 主任研究員、准教授, 男性)
- 学生の質的变化に伴い教育が学生支援に要する時間が格段に増えている。研究者としての教員の研究時間確保には教員数の増加や、研究支援者、補助者の増加が不可欠である。(大学, 第4グループ, , 社長・役員、学長, 男性)
- ①研究支援スタッフの充実。特に、単なる事務補助者ではなく、リサーチアドミニストレーターや技術職員等のある程度の専門的知識や能力を有する支援者を確保することが必要。②サバティカル休暇の導入拡大。研究の進展のためには、まとまった研究時間の確保が不可欠。③研究インフラの予算措置の拡充。④教育負担の軽減。(大学, 第1グループ, , 社長・役員、学長, 男性)

抽出条件: 「研究時間」と「支援者」を検索語に含む自由記述

出典: NISTEP 定点調査検索 (<http://data.nistep.go.jp/teiten/>)

自由記述検索の応用例

- 「研究時間」とその他の検索語（「支援者」など）をAND検索し、記述数を比べることで、回答者が具体的に何について述べているかのイメージが分かります。

	記述数	割合(%)
支援者	9	3.4%
支援体制	29	11.0%
臨床	10	3.8%
評価	30	11.4%
雑務	16	6.1%
事務	38	14.4%
会議	16	6.1%
全体	263	100.0%

本日の資料について

- 本日の資料は、NISTEP定点調査検索の説明ページに掲載しています(<http://www.nistep.go.jp/research/scisip/nistep-teiten-data>)。

NISTEP定点調査検索

NISTEP定点調査検索はこちらから

「科学技術の状況に係る総合意識調査（以下、NISTEP定点調査）」は、基礎研究の多様性など通常の研究開発統計からは把握しにくい、日本の科学技術やイノベーションの状況について、産官学の研究者や有識者への意識調査から明らかにすることを目的とした調査です。

NISTEP定点調査検索では、NISTEP定点調査2011および2012の結果について、以下を表示検索することが出来ます。2013年度以降の調査結果についても、継続的に蓄積していきます。

1. 機関属性別の集計結果
2. 個人属性別の集計結果
3. 過去の調査結果の時系列表示
4. 自由記述の検索

自由記述の検索ではNISTEP定点調査2011および2012の自由記述回答が検索できます。文字数140万字（文庫本約14冊分）を超える研究者や有識者の生の声です。

つぎのような形での活用を想定しています。

- 科学技術政策研究、イノベーション研究の研究者が仮説を形成する際のツール
- 行政関係者の方が科学技術やイノベーションの状況を把握するためのツール
- リサーチ・アドミニストレータ（URA）の方が大学や公的研究機関の状況を把握するためのツールなど

A機関属性別表示

パート1 大学や公的研究機関における研究開発の状況：若手人材

2011年 2012年 2013年 2014年 2015年

集計対象データ (1331件)

所属機関区分: 大学グループ:

大学種別: 大学機関分類:

年齢: 性別:

[集計対象データを絞り込む](#)

質問内容	大学	公的研究機関	研究企業	大学グループ別				大学機関分類別		
				第1	第2	第3	第4	理学	工学	医学
Q1-1 若手研究者の数は充分と感じますか。	3.1 (749)	3.3 (122)	—	3.8 (149)	3.0 (24)	2.7 (139)	3.1 (199)	3.6 (109)	3.1 (253)	2.3 (81)
Q1-2 若手研究者に自由に活動の機会や専念するための環境整備は十分かと感じますか。	3.6 (748)	3.8 (121)	—	3.5 (148)	3.5 (24)	3.7 (139)	3.4 (201)	4.0 (108)	4.0 (249)	3.5 (80)
若手研究者の自立性（例えば、独立して研究開発活動を行うことなど）	3.8 (748)	3.8 (121)	—	3.8 (148)	3.8 (24)	3.8 (139)	3.8 (201)	4.0 (108)	4.0 (249)	3.5 (80)

NISTEP定点調査検索の使い方について

- NISTEP定点調査検索の使い方については[こちら](#)  [3MB] をご覧ください（第1回NISTEPデータ・情報基盤ランチタイムセミナーで用いた資料です）。
- 天気図調整フォーマットは[こちら](#)
- 自由記述調整フォーマットは[こちら](#)  [609KB]

質疑応答

- 操作方法についての質問
- NISTEP定点調査検索についての質問や要望
- NISTEPデータ・情報基盤についての質問や要望など

〈NISTEPデータ・情報基盤の概要についてはパンフレットをご覧ください〉

NISTEPデータ・情報基盤

政策研究の高度化と
エビデンスベースの政策形成のためのツール

• 日本の科学技術の全体状況を知りたい【●】

• 将来の技術やその実現予測について知りたい【★】

• 論文や特許を用いた機関レベルの分析を行いたい【■】

そんな時は、

nistep データ基盤

文部科学省 科学技術・学術政策研究所(NISTEP)
2013年12月版

科学技術指標HTML版【●】

「科学技術指標」とは、客観的・定量的データに基づき、我が国の科学技術活動を体系的に把握するための基礎資料です。科学技術指標HTML版では、科学技術指標に掲載されている100を超える指標について、数値データのエクセル表を掲載しています。

- こんな時に役立ちます。
- 主要国の科学技術予算の時系列変化を知りたい。
 - 主要国の論文数の時系列変化を知りたい。

第4章 研究開発のアウトプット

4-1-1	世界の論文数の変化		2000
4-1-2	世界の特許発願数の増減		2000
4-1-3	主要国における論文数の増減と特許発願数の増減		2000

NISTEP定点調査検索【●】

NISTEP定点調査の結果の表示・検索ができます。自由記述の検索を用いるとNISTEP定点調査から得られた文字数140万字を超える研究者や有識者の生の声が検索できます。

- こんな時に役立ちます。
- 若手研究者の状況についての研究者の意見は？
 - 研究費の基金化について研究者はどう考えている？

ポイント大学等における研究開発に関する研究開発状況：研究開発の現状

研究機関	研究費	論文数	特許数	国際共同研究	国際共同特許	国際共同論文
国立研究開発法人 科学技術振興機構	1,234,567	12,345	1,234	123	12	123
国立研究開発法人 産業技術総合研究所	987,654	9,876	987	98	9	98
国立研究開発法人 情報通信研究機構	654,321	6,543	654	65	6	65
国立研究開発法人 物質・材料研究機構	321,098	3,210	321	32	3	32
国立研究開発法人 資源エネルギー庁	109,876	1,098	109	10	1	10

デルファイ調査検索【★】

「デルファイ調査」とは、科学技術の将来展望に関するアンケート調査です。デルファイ調査検索では、1971年から2010年まで9回実施した全ての調査結果をキーワード等によって検索できます。

- こんな時に役立ちます。
- 気になるあの技術は、何時ごろ実現しそう？
 - 2020年頃には、どのような技術が実現されている？

各回の調査結果の検索・表示

各回の調査結果の検索・表示

検索サンプル

調査年度	調査項目	調査結果
2017	2020年頃の実現予測	2020年頃の実現予測
2016	2020年頃の実現予測	2020年頃の実現予測
2015	2020年頃の実現予測	2020年頃の実現予測
2014	2020年頃の実現予測	2020年頃の実現予測
2013	2020年頃の実現予測	2020年頃の実現予測
2012	2020年頃の実現予測	2020年頃の実現予測
2011	2020年頃の実現予測	2020年頃の実現予測
2010	2020年頃の実現予測	2020年頃の実現予測

科学技術イノベーション政策に関するデータ【●】

昭和33、37年版及び昭和39年版から現在までの科学技術白書から重要施策を抽出し、データベース化しました。他にも、科学技術関係経費の総額・配分を整理・分類したデータベースを整備しています。

- こんな時に役立ちます。
- 日本の科学技術政策の変遷を知りたい。
 - 科学技術人材政策の歴史を知りたい。

「科学技術に対する国民意識の変化に関する調査」インターネット調査の調査データ

科学技術に対する国民の意識の変化を探るため、2009年11月から2012年3月にかけて、インターネット調査を毎月月末に実施しました。その調査データを公開しています。

- こんな時に役立ちます。
- 科学技術に対する関心度の変化を知りたい。

參考資料

回答者グループ

① 大学・公的研究機関グループ(約1,000名)

- ・ 大学・公的研究機関の長
- ・ 世界トップレベル研究拠点の長
- ・ 最先端研究開発支援プログラムの中心研究者
- ・ 大学・公的研究機関の部局や事業所の長から推薦された方

② イノベーション俯瞰グループ(約500名)

- ・ 産業界等の有識者
- ・ 研究開発とイノベーションの橋渡し(ベンチャー、産学連携本部、ベンチャーキャピタル等)を行っている方
- ・ シンクタンク、マスコミで科学技術にかかわっている方
- ・ 病院長など

注1: 推薦は教授クラス、准教授クラス、助教クラス各1名の計3名を依頼。

注2: 産業界等の有識者は、科学技術政策関係の審議会、分科会等の有識者、日本経団連の各種部会への参加企業の研究開発・生産技術等を担当している執行役員クラスの方、第3期科学技術基本計画中の定点調査の企業回答者、中小企業の代表から選定。

調査対象とした大学

- 論文シェア(2005～2007年)によるグループ分け(82大学)

大学グループ	日本における論文シェア	大学数	調査対象
1	5%以上	4	全て
2	1～5%	13	全て
3	0.5～1%	27	15大学を抽出
4	0.05～0.5%	134	50大学を抽出

(出典) 文部科学省科学技術政策研究所、NISTEP Report No. 122 日本の大学に関するシステム分析

調査対象とした82大学

大学名		大学名		大学名
東北大学	1	鹿児島大学	3	酪農学園大学
東京大学		横浜市立大学		東北薬科大学
京都大学		大阪市立大学		城西大学
大阪大学		大阪府立大学		千葉工業大学
北海道大学		近畿大学		東京歯科大学
筑波大学		帯広畜産大学		工学院大学
千葉大学		旭川医科大学		芝浦工業大学
東京工業大学		北見工業大学		上智大学
金沢大学		岩手大学		昭和大学
名古屋大学		東京海洋大学		昭和薬科大学
神戸大学	2	電気通信大学	東京医科大学	
岡山大学		長岡技術科学大学	東京慈恵会医科大学	
広島大学		北陸先端科学技術大学院大学	東京電機大学	
九州大学		福井大学	東京農業大学	
慶應義塾大学		山梨大学	星薬科大学	
日本大学		豊橋技術科学大学	鶴見大学	
早稲田大学		大阪教育大学	愛知学院大学	
群馬大学		奈良先端科学技術大学院大学	中部大学	
東京農工大学		奈良女子大学	京都産業大学	
新潟大学		和歌山大学	京都薬科大学	
信州大学	3	高知大学	同志社大学	
岐阜大学		佐賀大学	龍谷大学	
三重大学		札幌医科大学	大阪薬科大学	
山口大学		秋田県立大学	甲南大学	
徳島大学		会津大学	徳島文理大学	
長崎大学		福島県立医科大学	久留米大学	
熊本大学		名古屋市立大学	産業医科大学	
			崇城大学	4

NISTEP定点調査2012の実施状況

- 2012年10月29日～1月18日に実施。

グループ	送付数	回答数	回答率
大学・公的研究機関グループ	970	840	86.6%
学長・機関長等	94	85	90.4%
拠点長等	23	10	43.5%
研究者	853	745	87.3%
イノベーション俯瞰グループ	511	428	83.8%
全体	1,481	1,268	85.6%

大学・公的研究機関グループ

		実数	割合	割合(2011年度)
性別	男性	754	89.9%	90.4%
	女性	85	10.1%	9.6%
年齢	39歳未満	244	29.1%	31.1%
	40～49歳	287	34.2%	34.1%
	50～59歳	214	25.5%	24.9%
	60歳以上	94	11.2%	10.0%
職位	社長・役員、学長等クラス	84	10.0%	8.7%
	部・室・グループ長、教授クラス	267	31.8%	32.0%
	主任研究員、准教授クラス	283	33.7%	31.6%
	研究員、助教クラス	203	24.2%	27.2%
	その他	2	0.2%	0.5%
業務内容	主に研究(教育研究)	539	64.2%	64.0%
	主にマネージメント	90	10.7%	9.4%
	研究(教育研究)とマネージメントが半々	203	24.2%	25.4%
	その他	7	0.8%	1.1%
雇用形態	任期あり	290	34.6%	35.6%
	任期なし	549	65.4%	64.4%
所属機関区分	大学	722	86.1%	86.2%
	公的研究機関	117	13.9%	13.8%
	民間企業等	0	0.0%	0.0%
大学種別	国立大学	504	69.8%	69.7%
	公立大学	61	8.4%	8.6%
	私立大学	157	21.7%	21.7%
大学グループ	第1グループ	134	18.6%	19.6%
	第2グループ	235	32.5%	32.3%
	第3グループ	154	21.3%	21.2%
	第4グループ	199	27.6%	26.9%
大学部局分野	理学	105	14.5%	14.5%
	工学	240	33.2%	33.5%
	農学	78	10.8%	10.9%
	保健	226	31.3%	31.5%
	無し(学長、拠点長等)	73	10.1%	9.6%

イノベーション俯瞰グループ

		実数	割合	割合(2011年度)
性別	男性	404	94.4%	94.1%
	女性	24	5.6%	5.9%
年齢	39歳未満	31	7.2%	7.3%
	40～49歳	73	17.1%	17.8%
	50～59歳	171	40.0%	40.0%
	60歳以上	153	35.7%	34.9%
職位	社長・役員、学長等クラス	176	41.1%	42.9%
	部・室・グループ長、教授クラス	182	42.5%	40.0%
	主任研究員、准教授クラス	37	8.6%	8.0%
	研究員、助教クラス	5	1.2%	1.1%
	その他	28	6.5%	8.0%
業務内容	主に研究(教育研究)	36	8.4%	8.0%
	主にマネージメント	221	51.6%	51.3%
	研究(教育研究)とマネージメントが半々	119	27.8%	27.3%
	その他	52	12.1%	13.3%
雇用形態	任期あり	146	34.1%	33.9%
	任期なし	282	65.9%	66.1%
所属機関区分	大学	109	25.5%	23.3%
	公的研究機関	11	2.6%	2.7%
	民間企業等	308	72.0%	74.0%

NISTEP定点調査の報告書

- 次のURLからダウンロード可能
<http://www.nistep.go.jp/research/science-and-technology-system#target03>
- 大学の基礎研究の状況をどう考えるか、これからどうすべきか？ — 定点調査ワークショップ(2013年3月)より— [調査資料-224 / 2013.7]
- 科学技術の状況に係る総合的意識調査(NISTEP定点調査2012)報告書[NISTEP REPORT No.153 / 2013.4]
- 科学技術の状況に係る総合的意識調査(NISTEP定点調査2012)データ集[NISTEP REPORT No.154 / 2013.4]
- 科学技術の状況に係る総合的意識調査(NISTEP定点調査2011)報告書[NISTEP REPORT No.150 / 2012.8]
- 科学技術の状況に係る総合的意識調査(NISTEP定点調査2011)データ集[NISTEP REPORT No.151 / 2012.8]

定点調査の質問と第4期科学技術基本計画との対応

基本計画の章建て

該当する質問

はじめに

基本計画の章建て	該当する質問
I. 基本認識	
1. 日本における未曾有の危機と世界の変化	
2. 科学技術基本計画の位置づけ	
3. 第3期科学技術基本計画の実績及び課題	
4. 第4期科学技術基本計画の理念	
(1) 目指すべき国の姿	
(2) 今後の科学技術政策の基本方針	
① 「科学技術イノベーション政策」の一体的展開	
② 「人材とそれを支える組織の役割」の一層の重視	
③ 「社会とともに創り進める政策」の実現	
II. 将来にわたる持続的な成長と社会の実現	
1. 基本方針	
2. 震災からの復興、再生の実現	
(1) 目指すべき復興、再生の姿	
(2) 重要課題達成のための施策の推進	
(3) 震災からの復興、再生に関わるシステム改革	
3. グリーンイノベーションの推進	Q3-14 *グリーンイノベーションの重要課題の達成につながるような研究開発の活発度 Q3-16-1 *グリーンイノベーションの重要課題の達成に向けて、我が国で特に強化が必要な取り組み
(1) 目指すべき成長の姿	
(2) 重要課題達成のための施策の推進	
(3) グリーンイノベーション推進のためのシステム改革	
4. ライフイノベーションの推進	Q3-18 *ライフイノベーションの重要課題の達成につながるような研究開発の活発度 Q3-20-1 *ライフイノベーションの重要課題の達成に向けて、我が国で特に強化が必要な取り組み
(1) 目指すべき成長の姿	
(2) 重要課題達成のための施策の推進	
(3) ライフイノベーション推進のためのシステム改革	
5. 科学技術イノベーションの推進に向けたシステム改革	
(1) 科学技術イノベーションの戦略的な推進体制の強化	
① 「科学技術イノベーション戦略協議会(仮称)」の創設	Q3-1 *科学技術イノベーションを通じて達成すべき重要課題についての認識が、産学官で十分に共有されているか Q3-2 *科学技術イノベーションを通じて重要課題を達成するための戦略や国家プロジェクトが、産学官の協力のもと十分に実施されているか Q3-3 *重要課題達成に向けた、国による研究開発の選抜と集中は充分か Q3-4 *重要課題達成に向けた技術的な問題に対応するための、自然科学の分野を超えた協力は充分か Q3-5 *重要課題達成に向けた社会的な問題に対応するために、人文・社会科学の知識が十分に活用されているか
② 産学官の「知」のネットワーク強化	Q2-1 *大学・公的研究機関からの民間企業に対する技術シーズの情報発信の状況 Q2-3 大学・公的研究機関は、民間企業が持つニーズの情報を充分得ているか Q2-2 民間企業が持つニーズ(技術的課題等)への大学・公的研究機関の関心の状況 Q2-4 産学官の研究情報の交換や相互の知的刺激の量 Q2-5 大学・公的研究機関と民間企業との間の人材流動や交流の度合 Q2-6 *大学・公的研究機関と民間企業との橋渡しをする人材の状況 Q2-7 産学官の共同研究における知的財産の運用(知的財産の管理、権利の分配など)は円滑か Q2-8 *大学・公的研究機関の研究開発から得られた知的財産の民間企業における活用状況 Q2-9 *産学官連携活動が、大学・公的研究機関の研究者の業績として十分に評価されているか
③ 産学官協働のための「場」	
(2) 科学技術イノベーションに関する新たなシステムの構築	
① 事業化支援の強化に向けた環境整備	Q3-10 *政府調達や補助金制度など、市場の創出・形成に対する国の取り組みの状況 Q3-8 *科学技術をもとにしたベンチャー創業への支援の状況 Q3-9 *総合特区制度の活用、実証実験など先駆的な取り組みの場の確保の状況 Q3-7 *規制の導入や緩和、制度の充実や新設などの手段の活用状況
② イノベーションの促進に向けた規制・制度の活用	Q2-10 地域が抱えている課題解決のために、大学・公的研究機関は、地域ニーズに即した研究に積極的に取り組んでいるか
③ 地域イノベーションシステムの構築	Q2-7 産学官の共同研究における知的財産の運用(知的財産の管理、権利の分配など)は円滑か
④ 知的財産戦略及び国際標準化戦略の推進	Q2-8 *大学・公的研究機関の研究開発から得られた知的財産の民間企業における活用状況 Q3-11 *産学官が連携して国際標準を提案し、世界をリードするような体制整備の状況

Ⅲ. 我が国が直面する重要課題への対応

1. 基本方針

2. 重要課題達成のための施策の推進

- (1) 安全かつ豊かで質の高い国民生活の実現
- (2) 我が国の産業競争力の強化
- (3) 地球規模の問題解決への貢献
- (4) 国家存立の基盤の保持
- (5) 科学技術の共通基盤の充実・強化

3. 重要課題の達成に向けたシステム改革

- (1) 課題達成型の研究開発推進のためのシステム改革

Q3-1 *科学技術イノベーションを通じて達成すべき重要課題についての認識が、産学官で十分に共有されているか
 Q3-2 *科学技術イノベーションを通じて重要課題を達成するための戦略や国家プロジェクトが、産学官の協力のもと十分に実施されているか
 Q3-3 *重要課題達成に向けた、国による研究開発の選択と集中は充分か
 Q3-4 *重要課題達成に向けた技術的な問題に対応するための、自然科学の分野を超えた協力は充分か
 Q3-5 *重要課題達成に向けた社会的な問題に対応するために、人文・社会科学の知識が十分に活用されているか
 Q3-10 *政府調達や補助金制度など、市場の創出・形成に対する国の取り組みの状況
 Q3-7 *規制の導入や緩和、制度の充実や新設などの手段の活用状況
 Q3-8 *科学技術をもとにしたベンチャー創業への支援の状況
 Q3-9 *総合特区制度の活用、実証実験など先駆的な取り組みの場の確保の状況
 Q3-11 *産学官が連携して国際標準を提案し、世界をリードするような体制整備の状況

- (2) 国主導で取り組むべき研究開発の推進体制の構築

4. 世界と一体化した国際活動の戦略的展開

- (1) アジア共通の問題解決に向けた研究開発の推進
- (2) 科学技術外交の新たな展開

Q2-25 *我が国の大学や公的研究機関の研究者の、世界的な知のネットワークへの参画状況
 Q3-12 *我が国が強みを持つ技術やシステムの海外展開についての、官民が一体となった取り組みの状況

Ⅳ. 基礎研究及び人材育成の強化

1. 基本方針

2. 基礎研究の抜本的強化

- (1) 独創的で多様な基礎研究の強化

Q1-18 *研究開発にかかる基本的な活動を実施するうえでの基盤的経費の状況
 Q2-22 将来的なイノベーションの源としての基礎研究の多様性の状況
 Q2-27 基礎研究をはじめとする我が国の研究開発の成果はイノベーションに充分につながっているか
 Q2-23 *将来的なイノベーションの源として独創的な基礎研究が十分に実施されているか
 Q1-14 外国人研究者を受け入れる体制の状況
 Q1-13 外国人研究者数の状況
 Q2-25 *我が国の大学や公的研究機関の研究者の、世界的な知のネットワークへの参画状況
 Q2-26 我が国の基礎研究において、国際的に突出した成果が充分に生み出されているか

- (2) 世界トップレベルの基礎研究の強化

3. 科学技術を担う人材の育成

- (1) 多様な場で活躍できる人材の育成

- ① 大学院教育の抜本的強化
- ② 博士課程における進学支援及びキャリアパスの多様化

Q2-13 産業界や社会が求める能力を有する研究開発人材の提供
 Q1-6 現状として、望ましい能力を持つ人材が、博士課程後期を目指しているか
 Q1-7 望ましい能力を持つ人材が博士課程後期を目指すための環境整備の状況
 Q1-8 博士号取得者が多様なキャリアパスを選択できる環境整備に向けての取組状況
 Q2-14 *研究開発人材の育成に向けた民間企業との相互理解や協力の状況

- (2) 独創的で優れた研究者の養成

- ① 公正で透明性の高い評価制度の構築

Q1-2 若手研究者に自立と活躍の機会を与えるための環境整備の状況
 Q1-1 *若手研究者数の状況
 Q1-3 若手研究者の自立性(例えば、自主的・独立的に研究開発を遂行する能力)の状況
 Q1-16 *研究者の業績評価において、論文のみでなくさまざまな観点からの評価が充分に行われているか
 Q2-9 *産学官連携活動が、大学・公的研究機関の研究者の業績として充分に評価されているか
 Q1-1 *若手研究者数の状況
 Q1-4 *海外に研究留学や就職する若手研究者数の状況
 Q1-5 *長期的な研究開発のバフォーマンスの向上という観点から、今後、若手研究者の比率をどうすべきか
 Q1-10 女性研究者数の状況
 Q1-11 より多くの女性研究者が活躍するための環境改善の状況
 Q1-12 より多くの女性研究者が活躍するための採用・昇進等の人事システムの工夫の状況

- ② 研究者のキャリアパスの整備

- ③ 女性研究者の活躍の促進

- (3) 次代を担う人材の育成

4. 国際水準の研究環境及び基盤の形成

- (1) 大学及び公的研究機関における研究開発環境の整備

- ① 大学の施設及び設備の整備
- ② 先端研究施設及び設備の整備、共用促進

Q1-24 研究施設・設備の程度は、創造的・先端的な研究開発や優れた人材の育成を行うのに充分か
 Q2-20 *公的研究機関が保有する最先端の共用研究施設・設備の利用のしやすさの程度

- (2) 知的基盤の整備

Q2-19 我が国における知的基盤や研究情報基盤の状況

- (3) 研究情報基盤の整備

Q2-19 我が国における知的基盤や研究情報基盤の状況

V. 社会とともに創り進める政策の展開

1. 基本方針

2. 社会と科学技術イノベーションとの関係深化

(1) 国民の視点に基づく科学技術イノベーション政策の推進

① 政策の企画立案及び推進への国民参画の促進

② 倫理的・法的・社会的課題への対応

③ 社会と科学技術イノベーション政策をつなぐ人材の養成及び確保

Q2-30 *国は、科学技術イノベーション政策の企画立案、推進に際して、国民の幅広い参画を得るための取り組みを、充分に行っているか

Q2-31 国や研究者コミュニティは、科学技術に関連する倫理的・法的・社会的課題について充分に対応しているか

Q2-29 国は、科学技術イノベーション及びそのための政策の内容や、それらがもたらす効果と限界等についての説明を充分に行っているか

Q1-21 *研究時間を確保するための取り組みの状況

Q2-24 *資金配分機関のプログラム・オフィサーやプログラム・ディレクターは、その機能を十分に果たしているか

Q2-6 *大学・公的研究機関と民間企業との橋渡しをする人材の状況

(2) 科学技術コミュニケーション活動の推進

3. 実効性のある科学技術イノベーション政策の推進

(1) 政策の企画立案及び推進機能の強化

(2) 研究資金制度における審査及び配分機能の強化

① 研究資金の効果的、効率的な審査及び配分に向けた制度改革

② 競争的資金制度の改善及び充実

Q1-20 *研究費の基金化は、研究開発を効果的・効率的に実施するのに役立っているか

Q1-19 科学研究費助成事業(科研費)における研究費の使いやすさ

Q2-17 *競争的研究資金にかかわる間接経費は、十分に確保されているか

Q2-22 将来的なイノベーションの源としての基礎研究の多様性の状況

Q2-24 *資金配分機関のプログラム・オフィサーやプログラム・ディレクターは、その機能を十分に果たしているか

Q2-23 *将来的なイノベーションの源として独創的な基礎研究が充分に実施されているか

(3) 研究開発の実施体制の強化

① 研究開発法人の改革

② 研究活動を効果的に推進するための体制整備

Q2-20 *公的研究機関が保有する最先端の共用研究施設・設備の利用のしやすさの程度

Q1-22 *研究活動を円滑に実施するための業務に従事する専門人材(リサーチアドミニストレータ)の育成・確保の状況

Q1-21 *研究時間を確保するための取り組みの状況

(4) 科学技術イノベーション政策におけるPDCAサイクルの確立

① PDCAサイクルの実効性の確保

② 研究開発評価システムの改善及び充実

Q1-16 *研究者の業績評価において、論文のみでなくさまざまな観点からの評価が充分に行われているか

Q1-17 業績評価の結果を踏まえた、研究者へのインセンティブ付与の状況

Q1-18 *研究開発にかかる基本的な活動を実施するうえでの基盤的経費の状況

Q2-16 科学技術に関する政府予算は、日本が現在おかれている科学技術の全ての状況を鑑みて充分か

4. 研究開発投資の拡充